

海洋教育パイオニアスクールプログラム 成果報告書 1：海洋教育のデザイン

1. 学校名

気仙沼市立大島小学校

2. 活動テーマ

海とのかかわり方を進んで考え行動できる子供を育む「気仙沼大島学」の構築

3. 実践の概要・ねらい

東北最大の有人離島である気仙沼大島は、大島が生んだ詩人水上不二が「緑の真珠」と表現したとおり、豊かな緑や貴重な砂浜・磯が残っている。内湾や大島瀬戸では汽水域の特性を生かしたワカメ・カキ・ホタテの養殖が盛んである。ここ大島は、海と生きてきた先人の知恵や人材に恵まれた海洋地域である。

本校では、豊富な地域素材や人材を生かし、地域との連携を図り、「郷土の海に親しみ、海を知り、郷土への誇りと愛着をもち、持続可能な海とのかかわり方について進んで考え行動できる児童の育成」を目指して取り組んでいる

地域の海洋資源（人材・自然・養殖業等）を生かした学習を充実させることにより、ふるさと大島の自然や環境を見つめ、自らかかわり、調べ、様々な問題に気付き、未来の大島を心に描きながら、大島のよさを発信しようとする児童を育成することをねらっている。

4. 実践計画

①テーマ・概要・活動計画

1. 2年	テーマ「大島の海を楽しもう」		
活動内容	月	教科	時間
○磯遊び 海辺の生き物や風景に触れる	6月	生活	2

○砂の造形展 地域の海に親しむ	9月	行事	4
--------------------	----	----	---

3年	テーマ わたしたちにできること 「大島の自然を生かして」		
活動内容	月	教科	時間
○ゆず農家体験学習 地域の作物について学ぶ	4月 ～ 2月	総合	21
○そば栽培体験学習 大島の食文化に触れる	4月 ～ 2月	総合	27
○海辺の観察 水生生物の観察	5月 ～ 7月	総合	6
○砂の造形展・海水浴 地域の海に親しむ	9月	行事	6

4年	テーマ 「大島の海の豊かさを感じて」		
活動内容	月	教科	時間
○十八鳴浜を調べよう 地域の鳴り砂の海岸について学ぶ	6月 ～ 7月	総合	20
○ワカメを育てよう ワカメ養殖について調べ、ワカメを育て収穫する。	8月 ～ 2月	総合	35
○若木浜の観察 水生生物の観察	5月	総合	7
○砂の造形展・海水浴 地域の海に親しむ	9月	行事	6

5年	テーマ 「大島の海を見つめて」			
活動内容	月	教科	時間	
○養殖の歴史を調べよう 地域の養殖の歴史について調べる	4月 ～ 5月	総合	9	
○水中微生物を調べよう プランクトンについて調べる	6月 ～ 7月	総合	4	
○牡蠣養殖を調べよう 牡蠣養殖について調べ牡蠣を育てる	6月 ～ 2月	総合	3 7	
○砂の造形展・海水浴 地域の海に親しむ	9月	行事	6	

6年	テーマ 「大島の海と生きる」			
活動内容	月	教科	時間	
○ホタテについて知ろう ホタテの生態を調べ 養殖についての疑問をまとめる	4月	総合	3	
○ホタテ養殖を調べよう ホタテ養殖について調べホタテを育てる	5月 ～ 2月	総合	3 5	
○砂の造形展・海水浴 地域の海に親しむ	9月	行事	6	

4年, 5年 6年	テーマ 「大島の海と生きる」			
活動内容	月	教科	時間	
○海洋教育発表会・研修会 学習のまとめを発表する。	1月 ～ 2月	総合	4	

②実践の評価について

- ・持続可能な海とのかかわり方について考え、行動しようとする事ができたか。
- ・海とのかかわり方について考え、表現する事ができたか。
- ・郷土への誇りや、郷土を愛する心をもつ事ができたか

5. 今年度の実践

①計画からの変更点・追加点

- ・海に親しむ会（遠泳・砂の造形展）
→海に親しむ会（海水浴・砂の造形展）
※震災後再会していなかったため、段階を踏んで再開した。
- ・6年生の学習に鳴り砂の学習を追加した。

②実践の成果

海洋カリキュラムの開発

大島の海をベースにした活動を充実させるために、カリキュラムを見直し、組織的・画的に行う必要があると考え、海洋教育単元開発の作成を試みた。その際、「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」大切さを体験的・探求的に身につけることができるように活動を整理した。

大島の環境・海洋資源を生かした体験活動の充実

本校では、これまで様々な海に関する活動に取り組んできた。

海に親しむ活動・海を知る活動

○砂の造形展・遊泳をしよう【全学年】



全校で海に親しむ活動として、縦割り班での砂の造形展、遊泳を行った。子どもたちは浜の様子を知り、砂や海水を肌で感じる事ができた。地域の海に親しむ第一歩となった。

○十八鳴浜のひみつを探ろう【4年, 6年】

4年生は、鳴り砂の歴史と地域の海的环境について、6年生は鳴り砂の仕組みについて学習した。それぞれ、実際に浜で砂を鳴らし、その

音や感覚を確かめた。また、各学年ともゲストティーチャーから話を聞き、大島の鳴り砂に対する疑問を解決したり、環境に対する新たな課題を設定したりすることができた。

○養殖体験をしよう【4年～6年】

ワカメ（4年）・カキ（5年）・
ホタテ（6年）

大島漁協青年部の方々の協力の下、地域を支える養殖の体験を行った。

4年生は、子どもたちのために用意されたロープにワカメの種を挟む作業（11月）から毎月の成長記録や観察、収穫・塩蔵（2月）までを体験した。



5年生は、4年次のワカメの学習で得た知識と経験を生かし、以下、1)から3)のように大島の海に根ざした課題を設定し、体験学習（養殖碑やカキ筏見学、カキ剥き体験等）に取り組んだ。

- 1) カキが食べられるようになった時代と養殖の歴史
 - ①カキがいつ頃から食べられるようになったのか
 - ②カキの養殖はいつから始まったのか
 - ③気仙沼のカキ養殖の歴史について
- 2) カキの生活史と養殖の仕方
 - ①カキの生活史について
 - ②カキの養殖の仕方と気仙沼の海の環境について
 - ③広島のカキ養殖との違い（他地域との比較）
- 3) カキ料理と大島のカキや大島の魅力を多くの人に知らせよう
 - ①カキ料理について（実際に作って食べてみる。）
 - ②カキの栄養について
 - ③大島のカキと大島の魅力を知らせるための発信する方法を考える。

6年生は、ホタテの幼生を採取するところから体験した。そのための採苗器づくりから教わり、採苗器を海に入れ、その後の稚貝の選別等にも携わった。この体験学習は、中学校でのホタテの耳つり、収穫・調理という体験につながっていく。

また、体験前には、養殖業に携わっている方々を講師として、作業手順のみならず、海の中での成長の過程や養殖への思いを知ったり、自分たちで疑問に思ったことを調べたりする時間を設定した。知識と体験（実践）との往還によって、子どもたちの追究意欲は向上し、海の豊かさやそこに関わる人々の思いに触れ、活動に深まりが見られた。

海を守る活動・海を利用する活動

～大島の海のよさを見つめ発信しよう～

○大島ワカメのPR

大島のワカメを広く知ってもらおうと4年生が中心となって全校から図案を募集し、ワカメのパッケージづくりを行った。自分たちで収穫したワカメを交流校へ送ったり、東京池袋のみやぎふるさとプラザ前で配布したりした。子どもたちは、大島ワカメの特徴やおいしさについて、自信をもって話していた。

○他校との交流活動の中で

本校では、平成25年度より目黒区立駒場小学校との交流活動を毎年行っている。本年度は、相互交流の機会を設定した。5年生はワカメ、6年生はカキの学習の成果を発表し、意見をもらった。発表を通して、児童は自分たちの大島のよさ、豊かな海の恵みを実感していた。



また、加古川市立東神吉小学校とは、テレビ会議システム等を利用した交流を年間通して行っている。児童は、学習の進捗状況や成果等を紹介し合い、学びを振り返ったり深めたりした。

③次年度への課題

活動の成果（○）と次年度の取組（・）

- ふるさと大島の資源、海を活用した活動は、児童の追求意欲の持続につながった。
- 目黒区立駒場小学校等、具体的に伝える相手がいることにより、児童はふるさと大島のよさ・魅力を改めて捉えることができていた。
- ・ 地域の海洋資源の魅力をさらに感じ、子ども

たちに向き合わせたい学習材を精選していく。

- ・ 地域・異校種と連携した学習活動（地域への発信，中学校への接続を意識した取組）をさらに推進していきたい。

6. 主な連携機関及び内容

- ①大島公民館…体験学習協力
- ②大島漁協 …青年部による養殖体験講師
養殖事業委託
- ③東京大学 …大島小学校海洋教育発表会・
研修会における講師，指導講評
- ④大島蕎麦さろん，成田重行氏
…蕎麦栽培委託，蕎麦体験学習講師
- ⑤小山由紀子氏…ゆず農家体験学習協力

1.2年生「大島の海を楽しもう」

【実践のねらい】

豊かな地域素材や人材を生かし、地域との連携を図り「郷土の海に親しみ、海を知り、郷土への愛着をもち、持続可能な海とのかかわり方について進んで考え行動できる児童の育成」を目指す。

○時数 6月 6時間 (生活科2時間, 行事4時間)

- 目標 (1) 地域の海に親しみ、海辺の生き物や風景に触れ、郷土への愛着をもたせる。
- (2) 海辺の生き物に触れることで水生生物への興味関心を高める。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動			<div style="border: 2px solid blue; padding: 5px;"> <p>○磯遊び(2)生活 ・磯の生き物の観察 から海洋生物に興味</p> </div>	<div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>3年生の学習へ</p> </div>								
探求的な活動												
表現活動					<div style="border: 2px solid blue; padding: 5px;"> <p>○砂の造形展(4)行事 地域の海に親しみ、海に関する表現活動を楽し</p> </div>	<div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>3年生の学習へ</p> </div>						

3年生「大島の自然を生かして」

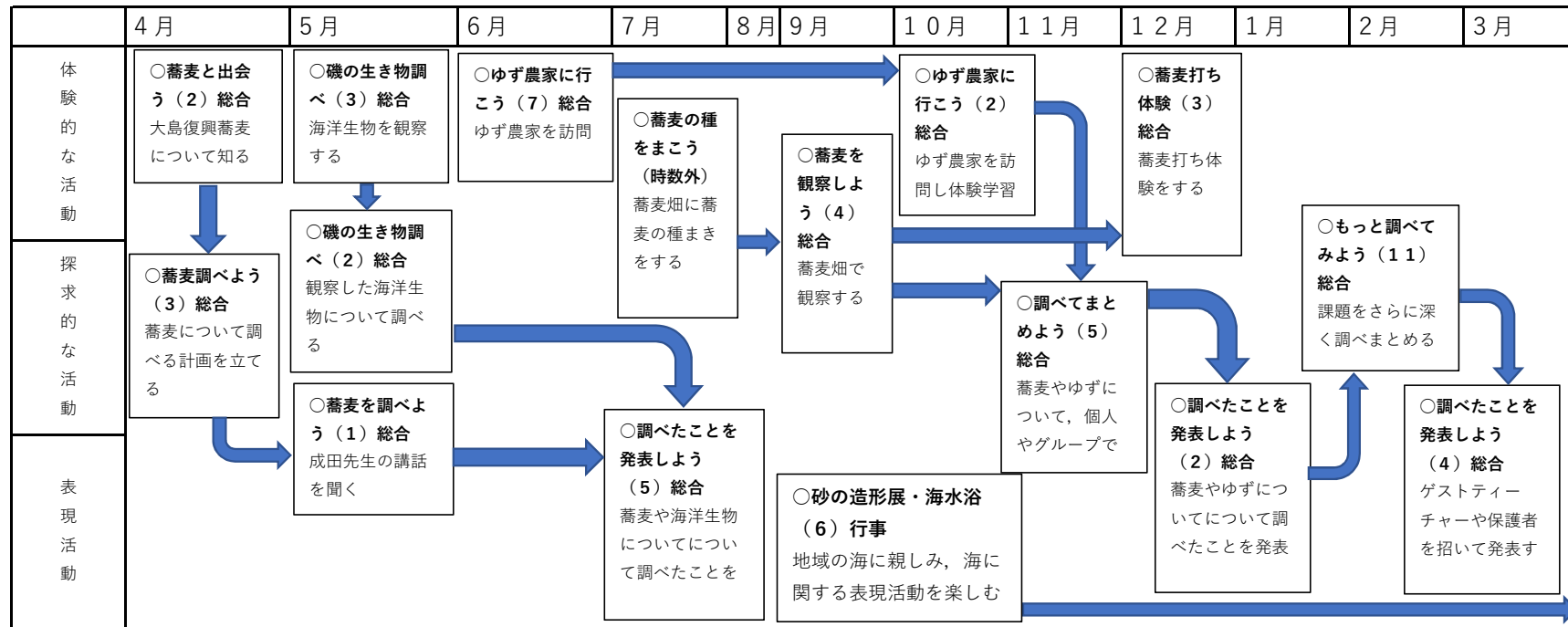
【実践のねらい】

豊かな地域素材や人材を生かし、地域との連携を図り「郷土の海に親しみ、海を知り、郷土への愛着をもち、持続可能な海とのかかわり方について進んで考え行動できる児童の育成」を目指す。

時数 4月～2月 60時間 (総合54時間, 行事6時間)

目標 (1) 大島の自然の特徴や、ゆず、蕎麦について調べる活動を通して、児童一人一人の興味関心を高めるとともに、大島の良さに気づかせ大島への愛着を深める。

(2) 自ら課題を設定し、解決する活動を通して、調べ方やまとめ方の基本について理解する。



4年生「大島の海の豊かさを感じて」

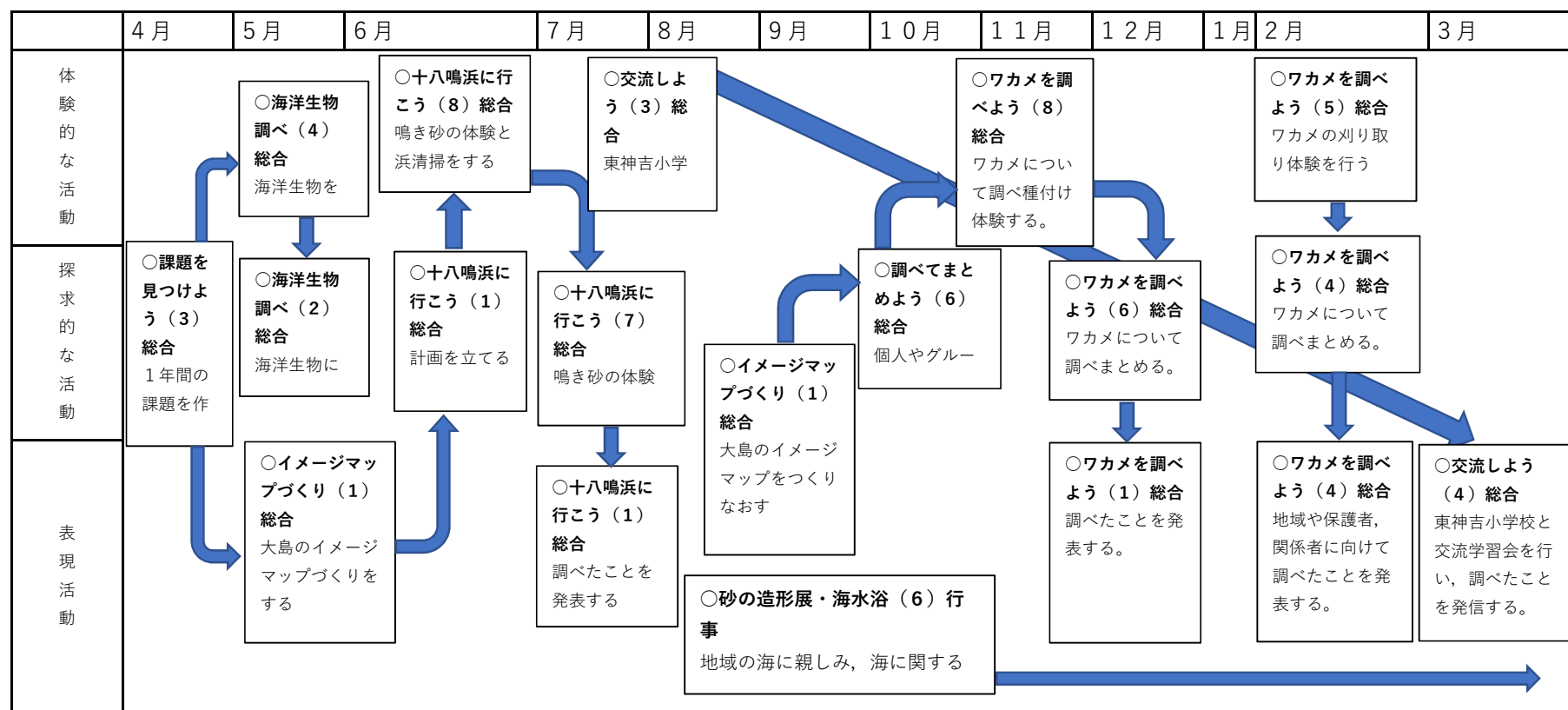
【実践のねらい】

豊かな地域素材や人材を生かし、地域との連携を図り「郷土の海に親しみ、海を知り、郷土への愛着をもち、持続可能な海とのかかわり方について進んで考え行動できる児童の育成」を目指す。

時数 4月～3月 68時間（総合62時間、行事6時間）

目標 (1) 大島の環境やそれを生かして活動している人達の取り組みについて調べることで大島の環境の特徴を理解し、ふるさとに対する愛着を深める。

(2) 地域の環境について進んで調べ、自分たちができることに取り組もうとする態度を育てる。



5年「大島の海を見つめて」

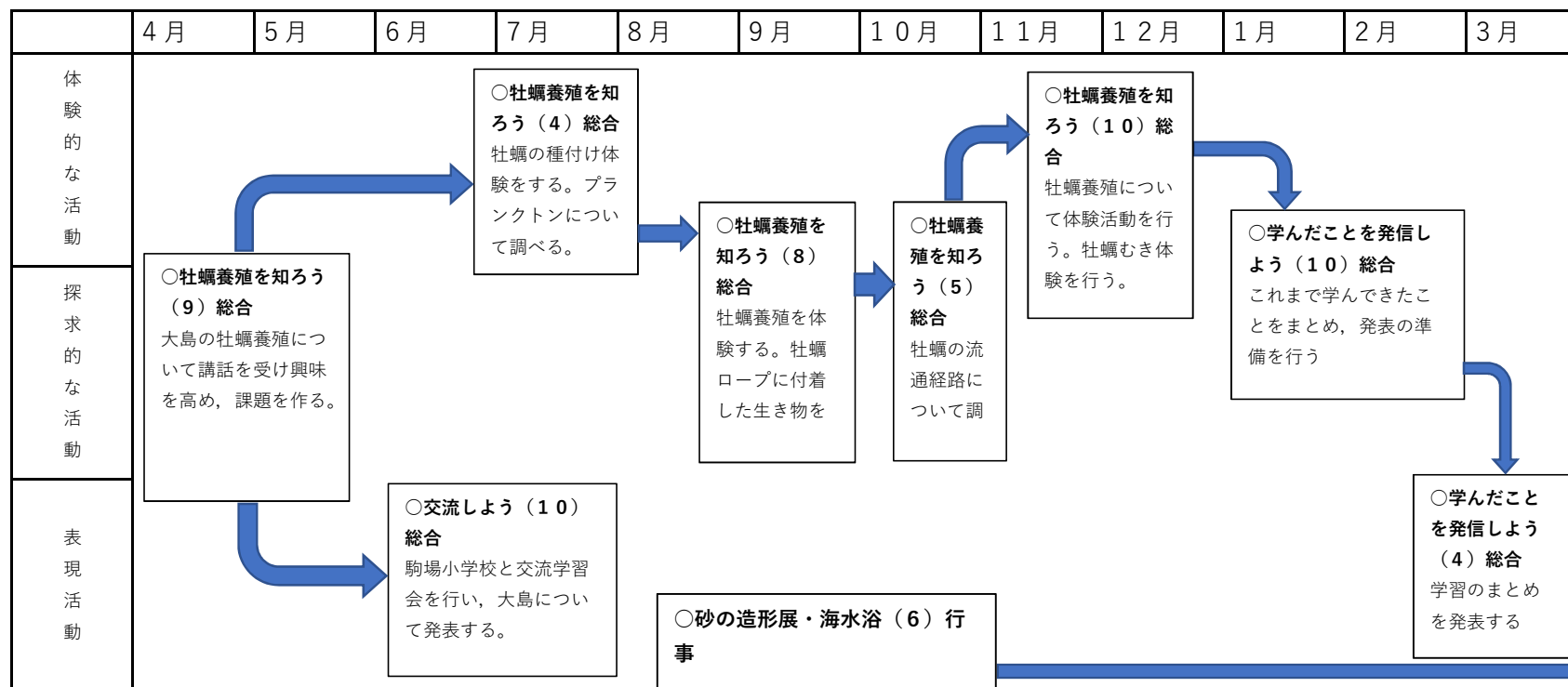
【実践のねらい】

豊かな地域素材や人材を生かし、地域との連携を図り「郷土の海に親しみ、海を知り、郷土への愛着をもち、持続可能な海とのかかわり方について進んで考え行動できる児童の育成」を目指す。

時数 4月～3月 56時間（総合50時間、行事6時間）

目標

- (1) 大島で盛んに行われている牡蠣養殖について興味関心をもたせ、ふるさとを誇りに思う気持ちをもたせる。
- (2) 他地域の児童との交流を通して大島のよさを再認識させるとともに、お互いの友情を深め合うことができるようにする。



6年生「大島の海と生きる」

【実践のねらい】

豊かな地域素材や人材を生かし、地域との連携を図り「郷土の海に親しみ、海を知り、郷土への愛着をもち、持続可能な海とのかかわり方について進んで考え行動できる児童の育成」を目指す。

時数 4月～3月 44時間 (総合 38時間 行事6時間)

目標

- (1) 大島の養殖業を通して、大島の海の環境について興味をもち、進んで調べようとする態度を育てる。
- (2) これまでに学習したことをもとに自分たちにできることを考え発信する。

